

令和8年度 短大入試出題方針

入試の種類	①一般入学試験「国語」(前期)(1月27日) ②一般入学試験「国語」(前期)(1月28日) ③一般入学試験「国語」(後期)(3月4日)
-------	---

a. 出題のねらい

- 「高等学校での学習到達度を測定するものであること」という方針を遵守する。高校の科目では「現代の国語」「論理国語」を範囲とする。
- 本学のアドミッションポリシー「愛知学泉短期大学が求める水準であること」という方針を遵守する。学園全体で新井紀子氏主催の「RST(6分野7項目)」を基にした読解力向上を進めている。また、今井むつみ氏が提唱する「アブダクション推論」の重要性も、教職員間で共有している。両者を意識した問題を取り入れる。
- 現大学1年生から学習指導要領が切り替わっている。学力の三要素「①知識・技能②思考力・判断力・表現力③学びに向かう力、人間性」を、バランスよく測る問題とする。

b. 難易度と平均点の予想(設問ごとの予想正解率)…前期(1/27)の場合。他も方針はほぼ同じ。

○全体

平均が6割の正解率(60点/100点中)になることを期待したいオープンクエスチョンは採点基準しだいが、「おおむね満足」の解答には6割の点数をつける。

高校側へ「愛知学泉短期大学は、時代の変化に対応している」というメッセージを発信したい。大学入学共通テストに象徴されるように、一問一答式でなくなっている。本学の入試問題もそれに倣う。

○問題一 (漢字の読み書き、語彙、文章読解)

「漢字の読み書き、語彙」に関しては前年と同様の出題で、同レベル。「文章読解」に関しては、丹念に読めば解答にいきつく。巨視的把握と微視的把握のバランスのよさを判断出来る。オーソドックスな問題と言える。

※平均点の予想…19点/31点中。

○問題二 (漢字の読み書き、語彙、接続詞、要約、リーディングスキル、PREP法を用いた論理的記述)

「漢字の読み書き、語彙、接続詞、要約」に関しては前年と同レベル。「リーディングスキル」はRSTを意識して作問。「PREP法を用いた論理的記述」ではロジカルシンキングと表現力を測る。オープンクエスチョンある。白紙に近い解答も予想される。内容を重視した採点基準にしたい。「おおむね満足」と評価できる解答を期待する。

※平均点の予想…25点/42点中。

○問題三 (アブダクション推論)

自ら課題を発見し解決しようとする姿勢を測る。学習指導要領に合致している。過去にない出題である。粘り強く取り組んだ者は、入学後の伸びを期待できる。内容を重視した採点基準にしたい。

※平均点の予想…16点/27点中。

c. 問題の量

前年度と比較できない。紙面としての分量は少ないが、解答には苦勞するだろう。

d. 受験生が解答に要する時間

「PREP法を用いた論理的記述」と「アブダクション推論」は、相当の時間を要する。解答時間を使い果たすことを期待したい。